

風船リレー



体育館に集まった子供たちの前に用意されたのは、風船とタオル。今回の集会は、集会委員会の児童が中心となって企画・運営した「風船リレー」です。道具選びから進行、声掛け、盛り上げ、そして片付けまで。集会委員会の子供たちは、先を見通しながら役割を分担し、全校が安心して楽しめる場をつくっていました。(担当教員いわく、子供たちと2か月温めてきた企画のこと。子らと共に前のめりになれる教員もすてきです。集会に掛ける意気込みを感じました!)

その熟成された競技が始まると、二人一組でタオルの上に風船を乗せ、チーム対抗でリレーが行われました。ルールはとても単純です。だからこそ、子供たちの考えや工夫が、すぐに表れてきました。活動の序盤、多くのペアは体を横に向け、カニ歩きのように慎重に進んでいました。

横向きになるとタオルを広く使うことができ、風船が真ん中に収まりやすくなります。たしかに、安定しやすい運び方でした。ただし、横向きでは風船が進む方向に対して大きく空気を受けます。風船はとても軽いため、少しの空気の流れでも影響を受けやすく、揺れが大きくなりがちです。また、体の向きと進む向きがずれるため、歩幅も小さくなり、速く進みにくいという特徴がありました。



そんな中、あるペアが前後に並び、縦向きで進み始めました。しかも、タオルをぴんと張るのではなく、少したるませて、風船を包み込むようにしていたのです。縦向きに進むと、体の向きと進む方向がそろい、自然と歩幅が大きくなります。風船が受ける空気の影響も小さくなり、前へ進みやすくなります。タオルをたるませることで、風船は真ん中に戻ろうとし、安定して運ぶことができました。



ここで見られたのが、行動心理学でいう「モデリング（観察学習）」の働きです。人は、うまくいっている他者の行動を観察し、それをまねることで行動を変えていきます。説明や指示がなくても、「あのやり方はよさそうだ」と気付き、自然に取り入れていく学びです。その動きを見て、次のペアが真似をします。さらに次へ。気付けば、その工夫はチーム全体に広がり、会場には一体感が生まれました。



集会の終わりには、片付けに向かう集会委員会の子供たちの姿がありました。「自分たちがつくった集会だからこそ、最後まで」そんな思いが伝わってくる背中でした。



こうして振り返ると、今年一年も、あっという間に過ぎた一年でした。

日常の何気ない場面の中で、子供たちの学びの姿や、確かな成長の足跡を、たくさん見ることができました。楽しい時間は、なぜか短く感じるものです。そして、ふと気が付けば…。

なんと、2学期の終わりも、えっ！ 来週かい！